

Set the Default to Open Science

研究のオープン化
附属図書館にご相談ください。



オープンアクセスハンドブックも発行中

オープンアクセスハンドブック



東京大学での オープンアクセス実現方法

オープンアクセスとは、研究成果論文などの学術情報をウェブ上に無料公開することで、誰もが自由にアクセスできるように（オープンに）することです。研究成果をオープンアクセスにすることで、視認性が向上し、研究成果の活用が促進されるようになります。

方法1

雑誌に掲載された論文を自ら公開

国際ジャーナルを刊行する主要出版社の約80%※が、雑誌に掲載した論文でも機関リポジトリなどで自由に公開することを認めています。

<公開できる原稿は、主に次の2パターン>

- ✓ 査読後に論文が受理された時点の最終原稿
- ✓ 出版者のレイアウト後、実際に出版された原稿

東京大学に所属の方は、東大の機関リポジトリ
UTokyo Repository をご利用ください！

論文を機関リポジトリ等で公開できるかどうかは、雑誌の投稿規定や著作権譲渡契約書を確認するか、下記のオープンアクセス相談窓口にご相談ください。

※2017年9月14日現在、SHERPA/RoMEOより
(<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/statistics.php?la=en&flDnum=1&mode=simple>)

方法2

オープンアクセス誌への投稿

オープンアクセスジャーナルに投稿・掲載することで、ジャーナルのサイトから「誰でも・いつでも・どこでも」論文を閲覧してもらえます。

- ✓ オープンアクセスジャーナル選びに迷ったら、下記オープンアクセス相談窓口にご相談ください。
- ✓ オープンアクセスジャーナルは投稿時の出版料（APC）が必要ですが、**東大構成員としての割引が適用される雑誌もあります**。詳しくは附属図書館ウェブサイト内のAPCに関するページをご覧ください。

(附属図書館サイト内で「APC」で検索、【学内限定】)

研究科・研究室発行の論文誌を電子ジャーナル化しませんか？

→ UTokyo Repositoryが便利です！

UTokyo Repositoryとは、学内で刊行した学術情報を電子ジャーナルのように公開できる、いわば「J-STAGEの学内刊行物版」。研究室や研究科で発行している論文誌を、手軽に電子ジャーナル化できます。

※ただし、学協会誌など事務局が東京大学の一機関に固定しない場合は原則として対象外になります。

こんないいことが！

- ✓ ウェブ上で、いつでもどこでも論文が読めるようになるので、図書室や研究室が閉まっても大丈夫！ コピーの手間も省けます。
- ✓ 論文誌の送付作業が大幅に軽減されます。
- ✓ 冊子体の在庫管理も少なくて済みます。

お問合せ先

UTokyo Repositoryでの電子ジャーナル化をご検討の方は、お気軽に下記のオープンアクセス相談窓口までご相談ください。

研究データの電子公開は？

論文の付録データについても、論文と併せてUTokyo Repositoryで公開できる場合があります。詳細は下記オープンアクセス相談窓口にお問い合わせください。

詳しくは『オープンアクセスハンドブック』をご覧ください

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/oahandbook>

問合せ先：附属図書館オープンアクセス相談窓口（附属図書館総務課）
E-mail: ac-info@lib.u-tokyo.ac.jp / Tel: 内線 22607 (外線 03-5841-2607)

